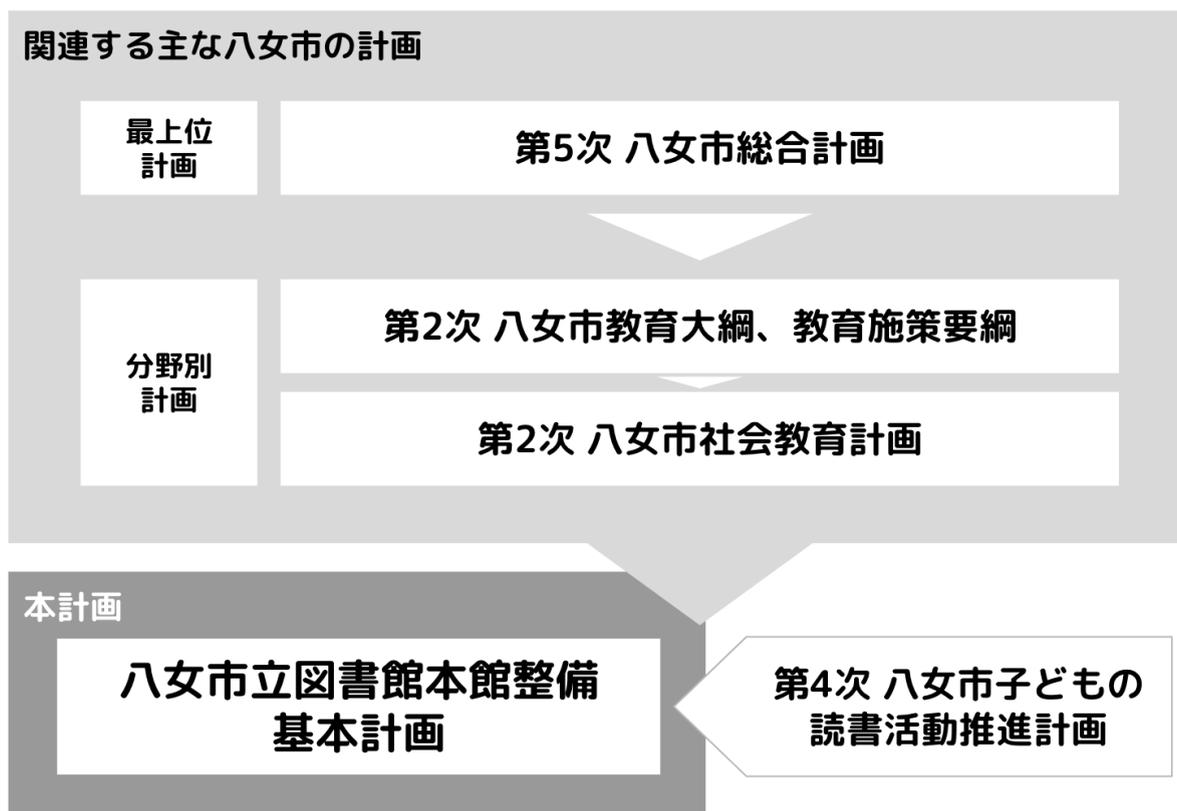


八女市立図書館本館整備に関わるコンセプト

1. ここまでの振り返りとコンセプトのはたす役割

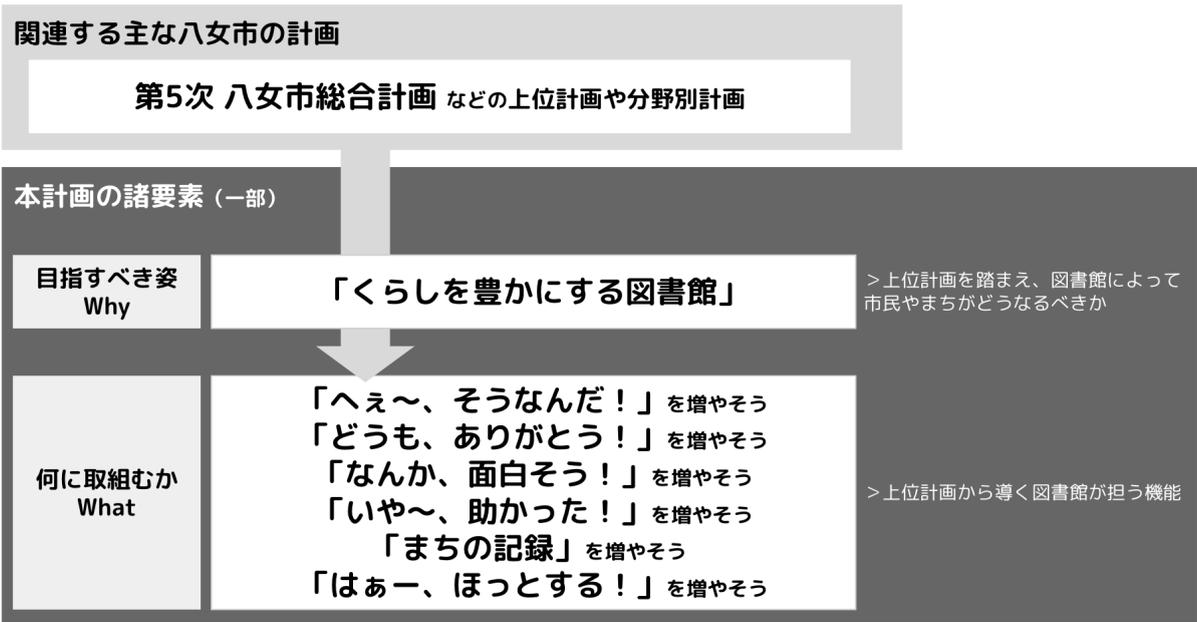
(1) 本計画の位置づけと基本方針について

この図書館本館整備計画は「第5次八女市総合計画」に基づき、その他「第2次八女市教育大綱」などの上位計画との連携も考慮した計画として位置づけております。



これら上位計画のまちづくりの方向性を踏まえて、「くらしを豊かにする図書館づくり」を大方向とし、取り組みの方向感を下記6点にとりまとめます。

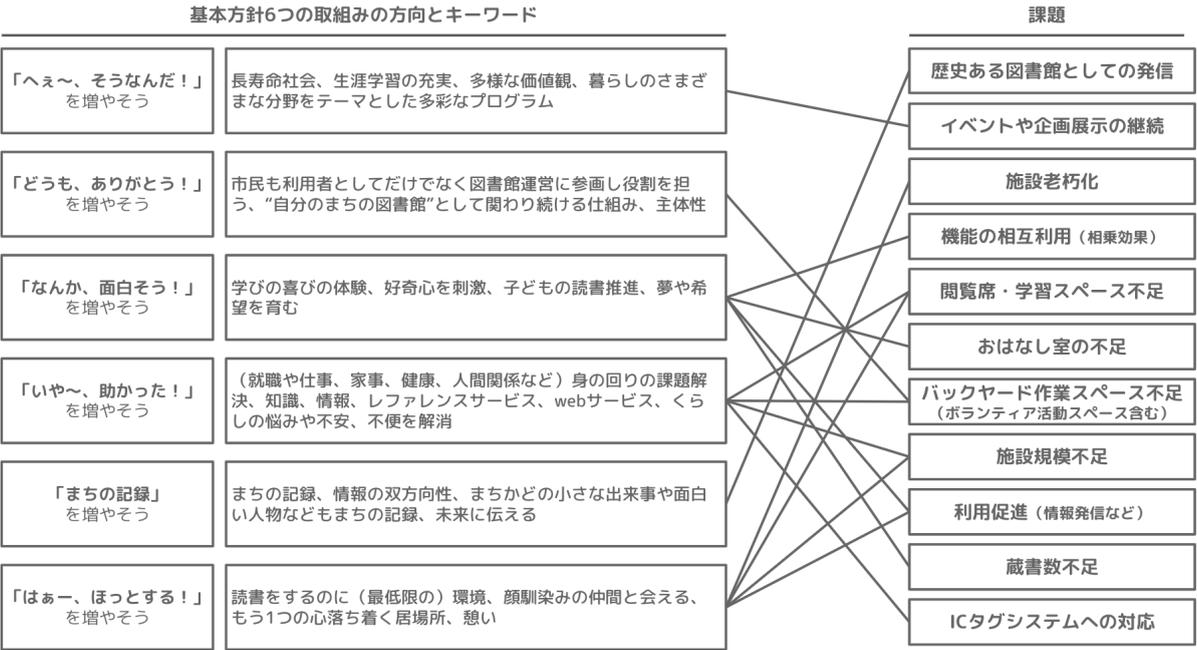
- ・「へえ～、そうなんだ！」を増やそう
- ・「どうも、ありがとう！」を増やそう
- ・「なんか、面白そう！」を増やそう
- ・「いや～、助かった！」を増やそう
- ・「まちの記録」を増やそう
- ・「はあー、ほっとする！」を増やそう



(2) 前提条件と課題

現状の八女市立図書館の施設概要や利用状況等の整理を行った上で、他自治体との比較などを通じて、課題整理を進めました。

分館数や図書館としての歴史などの特徴を活かすことや、施設の老朽化や各種スペースの不足など多くの重要課題が明らかになりました。取組みの方向と紐づけ、サービス企画につなげていきます。



(3) アンケート、ワークショップ、検討委員会での論点の整理と考察

アンケートでは若年層を中心に1,423と多くの地域の方々の回答を集めることができました。若年層においては特に本の貸出返却以外に居場所としての図書館の需要が非常に大きく見られました。他世代にもそれぞれ図書館で様々に過ごしたいニーズが見られ、図書館に求める要素として、気軽に立ち寄れて、寛いだり交流したりしながら、自分たちらしく時間を過ごす居場所としての要望が強いことが伺えました。また、今後の利用拡大のために「資料収集(選書)」をはじめとした図書館の「基本サービス」に対して、それぞれの世代から多くの意見や要望が寄せられていました。

ワークショップは広い市民、利用者層からの図書館に関わるサービスアイデアを取り入れるために、計37名の参加者で、下は小学生、上は70代までの幅広い世代、様々な図書館との関わりがある方(あるいは普段は関わりがあまりない方)にバランスよく参加いただきました。基本方針の6つの取組みの方向性をもとにしながらアイデアを広げ、計246のサービスアイデアが集まりました。ここでも居場所としての図書館のあり方に関するアイデアが非常に多く集まりました。

検討委員会においては、市民代表や有識者を中心に9名で計画策定に関わる論議を進めています。多様な論点から議論を進めていく中で、アンケートやワークショップでの様々な要望やアイデアを実現していくためにも、市民が主体的に図書館に関わり、参加するような構図を実現していくという意向も大きく見られました。

アンケートやワークショップ等により、総計563のサービスアイデアが集まりました。それらの市民アイデアを6つの基本方針をもとに分類を進め、それぞれにサービスとしての中分類を設定しました。

基本方針6つの取組みの方向とキーワード

課題

<p>「へえ～、そうなんだ！」 を増やそう</p>	<p>長寿命社会、生涯学習の充実、多様な価値観、暮らしのさまざまな分野をテーマとした多彩なプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> — 生涯学習：①八女市 — 生涯学習：②本を体験 — 生涯学習：③宇宙 — 生涯学習：④科学・実験 — 生涯学習：⑤その他
<p>「どうも、ありがとう！」 を増やそう</p>	<p>市民も利用者としてだけでなく図書館運営に参画し役割を担う、“自分のまちの図書館”として関わり続ける仕組み、主体性</p>	<ul style="list-style-type: none"> — 市民参加：①意見・提案 — 市民参加：②ボランティア — 市民参加：③講師など — 市民参加：④本の紹介 — 市民参加：⑤その他
<p>「なんか、面白そう！」 を増やそう</p>	<p>学びの喜びの体験、好奇心を刺激、子どもの読書推進、夢や希望を育む</p>	<ul style="list-style-type: none"> — 話題・関心喚起 — 情報発信 — 地域内他施設連携 — イベント — 子ども：①読書推進 — 子ども：②育児支援 — 子ども：③学校連携
<p>「いや～、助かった！」 を増やそう</p>	<p>(就職や仕事、家事、健康、人間関係など)身の回りの課題解決、知識、情報、レファレンスサービス、webサービス、くらしの悩みや不安、不便を解消</p>	<ul style="list-style-type: none"> — 基本サービス：①資料収集(選書) — 基本サービス：②レファレンス — 基本サービス：③開館日・時間 — 基本サービス：④その他 — 全域サービス：①移動図書館 — 全域サービス：②電子図書館 — 全域サービス：③分館ネットワーク — 全域サービス：④その他 — 課題解決 — 交通アクセス — 託児等 — その他サービス
<p>「まちの記録」 を増やそう</p>	<p>まちの記録、情報の双方向性、まちかどの小さな出来事や面白い人物なども記録、未来に伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> — アーカイブ・発信 — 市民創作活動
<p>「はあー、ほっとする！」 を増やそう</p>	<p>読書をするのに(最低限の)環境、顔馴染みの仲間と会える、もう1つの心落ち着く居場所、憩い</p>	<ul style="list-style-type: none"> — 居場所：①空間づくり・設備 — 居場所：②交流・憩い — 居場所：③世代・目的別 — 居場所：④バリアフリー

これらの議論やアイデアを統合し、構造的な整理を行うと、6つの基本方針においては居場所、基本サービス、市民参加といった要素を重点的に捉えるべきであると考えられます。

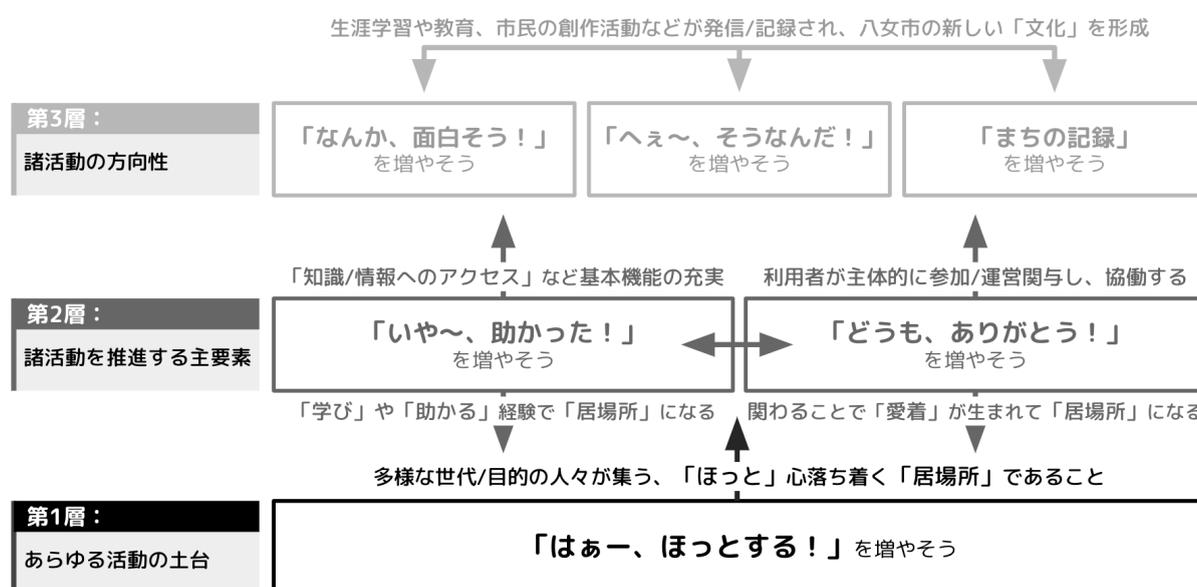
まず、「居場所」に関わる取組み方針である「はあー、ほっとする！」を増やそうを全体の活動の土台として位置づけます。

次いで「知識／情報へのアクセス」など図書館の基本機能に関わる取組み方針である「いや～、助かった！」を増やそうと、市民参加に関わる取組み方針で利用者の主体的な

参加／運営を推進する「どうも、ありがとう！」を増やそうを様々な活動を推進するための主要素として位置づけます。

また、この2つは「居場所」つくりの観点でも、「知識／情報へのアクセス」の経験を通じて「助かる」経験や、図書館へ関わりの経験を持つことで「愛着」が生まれることで「居場所」としての図書館をより深める機能も担うものです。

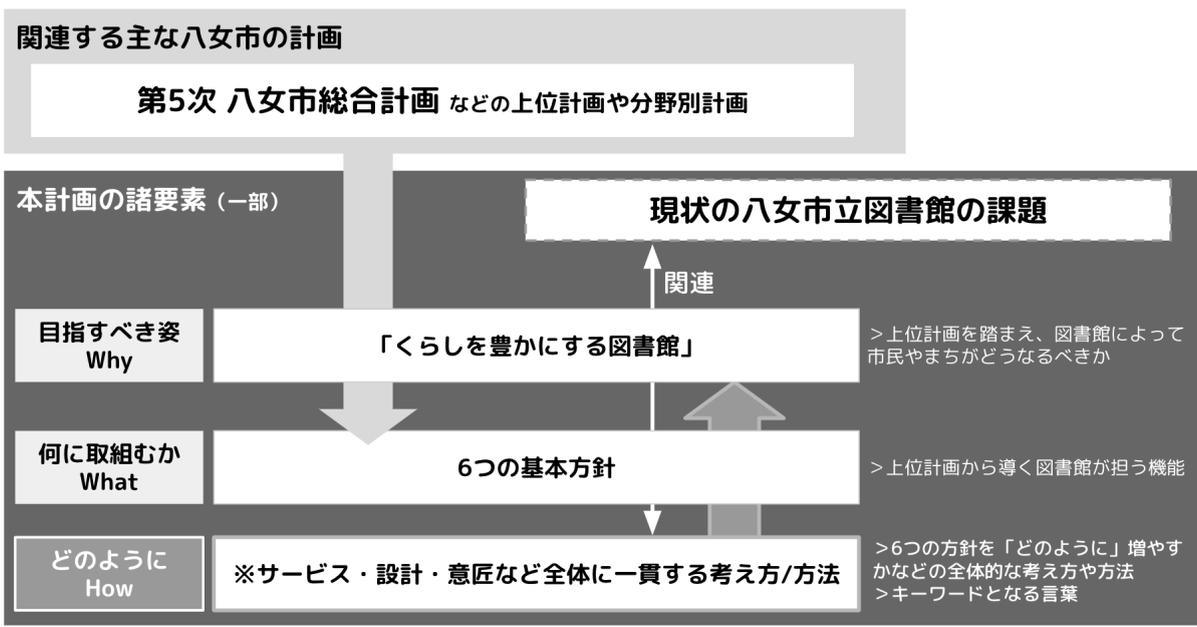
他の要素も含めて、アンケートやワークショップから出たアイデアを元として、6つの取組み方針を解釈した上で再整理を行い、それぞれの位置づけや関係性を下記の3層構造で整理を行います。



(4)コンセプトのはたす役割

「第5次八女市総合計画」等の上位計画をもとに整理されたゴールである「暮らしを豊かにする図書館」と、そのために担うべき取組みである6つの方針を、どのような方法、あり方で実現していくかが次にご説明する「コンセプト」のはたす役割です。

基本方針の中で掲げたゴール(「暮らしを豊かにする図書館」)も6つの方針も、これからの図書館を考える上で不可欠な内容であるがゆえに、網羅的で普遍性の強い内容となっていますが、コンセプトはこれからの八女市立図書館本館の特色づけや方向づけを行うための要素であり、解釈をしながらサービス、設計、意匠などの全体に一貫させるキーワードとなるものです。



以上を踏まえて、次項よりコンセプトに関わる説明を進めます。

2. 八女市立図書館本館整備のコンセプト

新芽のように

■八女市の新たな可能性を育てる「居場所」

計画策定の中で浮かび上がってきたのは、新しい「居場所」としての図書館の必要性でした。

昨今、図書館という場は単なる本の貸し借りを超えて様々な社会的な機能を担う場所となり、国内でも多くの事例が生まれています。一方、八女市の図書館はスペース等の問題によって、読書したい人たちすらも時間を過ごすことが難しい場所になっており、アンケートやワークショップの中でも「居場所」としての図書館を渴望する声が多くありました。また、駐車場不足等のアクセスの問題を指摘する声も強くありました。

目指すのは様々な目的を持つ人はもちろん、無目的な人でも気軽に集えて、様々な年代の人たちが「ほっとする」居場所です。

この新しい居場所は、地域に新しい人の流れをつくり、地域の次の時代に向けた変化が芽吹く機会をもたらします。芽吹いた可能性が、安心して自由闊達にすくすくと育つ、そんな土壌となるような居場所をつくりたい。我々はそう考えています。「新芽のように」にはそんな始まりの意味が込められています。

■みんなが主体者として「共に育む」場

近年、人々にふれあいの機会を提供する居場所の存在に対し再評価が進んでいます。共助（インフォーマルサービス）を育み、関わりを広げることが大切だとあらためて認識されているのです。

このような観点から、我々は利用者が単なるサービスの受け手であるだけでなく、様々なかたちで図書館に参加、関与することを想定すべきだと考えています。

さまざまな人たちに読み聞かせや朗読会をする、得意なことを教えあう講師になる、我々が考える図書館はたんなる奉仕活動ではなく、多様な体験機会の提供を主体的に楽しめる場所と機会をつくります。また、市民みんなが図書館を「自分の居場所」として愛着を感じられるためにも、本の貸し借り以外に気軽に図書館に関われる仕組みや仕掛けを、図書館内はもちろん外側にも用意し、まちと図書館のつながりを強化していきます。

この図書館は社会参加と助け合いのコミュニティプラットフォームとしての機能も担いながら、共につくり育てる図書館として、時間をかけながら市民みんなの大切な場となっていきます。

我々は、八女茶の茶づくりは、いち産業や労働にとどまらない地域協働や共生のシンボルだととらえています。家族や地域のみんなが参加し大切に育て収穫する、関わるみんなを豊かにするものです。

毎年毎年お茶の新芽を皆で大切に育てていくように、あるいは八女茶という地域資本を数百年かけて育ててきたように、「新芽のように」はみんなと一緒に場を育み、これからの八女市の歴史をつくっていくことを想起させる言葉です。

■文化や伝統の「香り」

今回の計画策定において、図書館を通じて八女市の文化や伝統を次世代へと伝えていきたいという声も大きい一方で、「八女市らしく」にこだわり過ぎないで欲しいという声もワークショップや検討委員会などの複数の市民対話の機会でも聞こえてきました。

豊かな自然資源と多様な文化や歴史的背景を持つ八女市だからこそ、構想・計画を進めていくと、伝えたい要素、盛り込みたい要素が多くなってしまいます。しかし、コンセプトの言葉はシンプルに価値観を伝え、視点の自由度の高い言葉が相応しいと考えました。八女市らしさやその文化を露骨に押し出すのではなく、香りや気配の中でほのかに八女市を感じて自然に伝わる、そんな空間創りを考えていくことも必要だと考えています。

「新芽」はこの地域では八女茶や森林資源を喚起させることが多い言葉です。しかし、例えば桜が有名な地域ならば桜を想起するような、間口の広い言葉でもあり、本質的には新しいスタートや未来、緑の息吹きを感じさせる言葉です。解釈の余地が大きい一方、共通的に使うことで大きな方向感を揃えていくことができる言葉だとも思います。

さらに、八女市民だからこそ「新芽のように」と聞いて感じる「香り」がある、そんな特別な言葉であるとも感じています。

■「暮らし」を豊かにする図書館

八女市の伝統的資産の多くは、芸術や宗教に根ざしたものではなく、市民の暮らしや営みの中から生まれているものです。八女茶の生産にも毎年季節を巡りながら繰り返される循環の構図があり、それは地域に根付く「暮らし」文化そのものだと思います。

これからの図書館も市民の毎日の「暮らし」の中に根付き、「暮らしを豊かに」する存在を目指しています。市民一人ひとりの小さな「暮らし」の中だからこそ、文化や伝統が生まれ、地域の未来の豊かな歴史がかたちづくられていきます。

より多くの市民一人ひとりの「暮らしを豊かに」するためにも、この図書館はまちに関わり、溶け合い、浸み出していきます。図書館の内にも外にも様々な機会をつくり出していきます。

図書館がつくる多様な体験機会によって、心が元気になり、成長する喜びを感じる。そして、その喜びが「暮らし」を彩り、人生の幅を深めていくこと。この図書館は「暮らし」の中に、新芽の季節のようなわくわくとした気持ちをもたらします。関わる人がそれぞれの楽しみを見つけ、また何かしたい、また行きたいと感じる瞬間が自然と増していきます。

そしてとくに、未来の八女市、社会を担う、子どもたちの発想力や好奇心、楽しむ気持ちや安心感、協創や共生のこころを育むことが何よりも大事だと考えています。

子どもたちの好奇心の芽吹きを生み、生涯学習を推進することは図書館にとって最も大切な役割です。八女市の中で未来を担う子どもたちにとって、かけがえのない居場所になることを目指して、様々な工夫や体験の機会を用意します。

歴史や伝統から未来につながる大きな時間軸はもちろん、お茶を飲んで「ほっと」一息するようなひとときを含む日々の「暮らし」の循環を捉えて、地域とともに発展的に成長していく。

「新芽のように」は様々な時間や「暮らし」のイメージを広げて、いつでも前に進み始めるための言葉です。

今、我々が八女市につくっていくべき図書館を体現していくために最適な言葉であると考えて、「新芽のように」をコンセプトとしてここに掲げます。

このコンセプトを踏まえ、ここから本計画のサービスの立案等を進めていきます。また、来年度以降の設計や運営計画等のフェーズにおいてもこのコンセプトを発展的に解釈するかたちでの検討を進める想定です。